

学校概要

校名 京都市立双ヶ丘中学校
所在地 京都市右京区花園岡ノ本町5-1
学校長 杉本 千恵
電話 (075) 463-8165
FAX (075) 463-8166



校名の由来

一の丘、二の丘、三の丘、と丘が南北にならぶ、名勝雙(双)ヶ岡の東麓に位置するので、『双ヶ丘中学校』と名づけられた。校下には、御室仁和寺、妙心寺、法金剛院、龍安寺などの史跡が多い。学校のすぐ北にある長泉寺は「徒然草」の作者吉田兼好が住んでいたといわれる。なだらかな丘陵の松の緑や、あたりのたたずまいが、古くから歌や小説の舞台になっている。

学校沿革史

- 昭和24年 1月 京都市右京区花園岡ノ本町5番地に工事着工
- 4月 開校式を挙行
初代 椎野 亨校長着任
- 5月 校章制定
- 昭和25年 1月 第一期工事十教室の増築工事に着工(3月完成)
- 昭和26年 3月 第一回卒業式(297名)
- 4月 第二代 松本 祐校長着任
- 昭和27年 6月 創立5周年記念事業として図書館開館
- 昭和29年 7月 第三代 北畑 紀一郎校長着任
- 昭和30年 10月 講堂兼体育館竣工記念式挙行、校歌制定
- 昭和31年 4月 第四代 井上 幹夫校長着任
- 昭和32年 12月 第五代 宮島 晋校長着任
- 昭和33年 11月 中学校正門完成、創立10周年記念式典挙行
- 昭和34年 3月 生徒会寄贈による10周年記念像完成
- 昭和35年 4月 鉄筋校舎3階建6教室竣工
- 昭和36年 4月 第二期鉄筋校舎3階建6教室竣工
- 昭和37年 4月 第六代 勝山 英雄校長着任
- 9月 第三期鉄筋校舎6教室竣工
- 11月 京滋優秀学校図書館として表彰
- 昭和38年 2月 校舎焼失(木造校舎2棟22教室)
- 昭和39年 2月 災害復旧新校舎(15教室)竣工
- 10月 テニスコート完成
- 昭和40年 1月 理科室整備完了
- 10月 調理室整備完了
- 昭和42年 4月 第七代 吉水 純平校長着任
- 昭和43年 10月 25mプール竣工
- 昭和46年 4月 筋ジストロフィー症の入院生徒のための特別学級開設
- 7月 本館南側の庭園改造
- 昭和47年 4月 第八代 荒本 光雄校長着任
- 昭和48年 12月 体育館フロアー張替工事竣工

昭和49年 4月 筋ジストロフィー症の生徒学級分離
第九代 垣内 雪夫校長着任

昭和50年 4月 第十代 水田 二三雄校長着任

昭和52年 2月 旧本館増改築工事の地鎮祭挙行
10月 新本館へ移転

昭和54年 5月 創立30周年記念式典を挙る

昭和55年 4月 第十一代 赤阪 鐵夫校長着任

昭和56年 4月 新教育課程実施“ゆとりと充実をめざして”
4月 文部省指定研修“心身障害児理解推進” “鳴滝養護学校との交流”

昭和57年 4月 京都市立双ヶ丘中学校地生連協発足（地域生徒指導連絡協議会）
9月 6号校舎竣工式

昭和58年 4月 第十二代 井本 喜夫校長着任

昭和59年 11月 心身障害児理解推進教育に貢献「学校表彰」を受賞

昭和62年 5月 福祉教育協力校として指定

昭和63年 12月 南門全面取替改修

平成 元年 3月 創立40周年記念誌発行
4月 第十三代 荻野 祐二校長着任
5月 生徒数925名
9月 2号校舎に家庭科被服室・調理室改修、4号校舎技術室・理科室・音楽室改修

平成 2年 5月 生徒数864名
8月 本館にコンピュータ室設置

平成 3年 4月 生徒数809名

平成 4年 1月 屋内体操場改修のため体操場解体
5月 生徒数774名
3月 第42回卒業式を京都会館第2ホールにて挙る

平成 5年 2月 新屋内体操場完成
4月 平成5、6年文部省心身障害児理解推進校、
京都市教育委員会養護育成研究指定校指定
5月 生徒数713名

平成 6年 3月 校歌額設置
4月 第十四代 矢野 靖恭校長着任
5月 生徒数695名

平成 7年 1月 運動場全面改修完成
4月 文部省指定心身障害児理解推進表彰
5月 生徒数641名

平成 8年 5月 生徒数648名

平成 9年 5月 生徒数626名

平成10年 5月 生徒数627名
11月 創立50周年を祝う会挙る、創立50周年記念誌発行

平成11年 5月 生徒数611名

平成12年 4月 第十五代 小林 隆夫校長着任
5月 生徒数586名
10月 カウンセリングルーム完成

平成13年 5月 生徒数568名

平成14年 5月 生徒数544名

平成15年 4月 第十六代 橋戸 良行校長着任
5月 生徒数522名
10月 いきいき交流ルーム・配膳室完成

平成16年 5月 生徒数491名

- 9月 図書館整備（フローリング・準備室）
- 平成17年 5月 生徒数461名
- 8月 柔道場完成
- 平成18年 5月 生徒数471名
- 6月 文部科学省・京都市教育委員会指定「学校評価実践協力校」
- 11月 文部科学大臣表彰「読書活動優秀実践校」受賞
- 平成19年 5月 生徒数481名
- 10月 みやこ学校創生事業「図書館教育」研究報告会開催
- 平成20年 4月 第十七代 中尾 克己校長着任
- 5月 生徒数500名
- 平成21年 4月 耐震工事着工（10月完了）
- 5月 生徒数519名、
- 平成22年 5月 生徒数516名
- 12月 さわやかトイレ工事着工（3月完了）
- 平成23年 4月 第十八代 太田 和男校長着任
- 5月 生徒数524名
- 平成24年 5月 生徒数508名
- 7月 学校運営協議会設立
- 平成25年 5月 生徒数502名
- 11月 学校保健表彰
- 平成26年 1月 避難所備品設置
- 4月 国立教育政策研究所指定 教育課程研究指定校
- 5月 生徒数495名
- 11月 学校表彰
- 平成27年 5月 生徒数500名
- 11月 道徳研究発表会
- 平成28年 4月 第十九代 林 善和校長着任
- 5月 生徒数486名
- 平成29年 1月 平成28年度全国健康づくり推進学校 優良賞を受賞
- 3月 職員トイレ一部改修
- 5月 生徒数470名
- 8月 京都府歯科医師会から歯の健康診断の事後措置が優秀として表彰
- 9月 プール改修工事着工
- 10月 学校運営協議会主催のオペラ公演を実施
- 平成30年 3月 プール改修工事竣工
- 4月 学校教育目標
「心豊かに探究心をもち、未来へ歩み続ける生徒を育成する」に改定
京都市教育委員会より
「平成30年度 新学習指導要領の実施に向けた実践研究校（教科等：総合的な学
習の時間）」の指定
「平成30年度 学校運営協議会促進事業」の指定
- 5月 生徒数456名
- 10月 創立70周年記念式典を挙行
- 平成31年 1月 研究発表として、2年生のポスター発表と「ふれあいトーク双ヶ丘」
を実施
- 3月 東側道路との境にあったブロック塀を撤去し、金属柵を設置
- 令和元年 5月 生徒数462名
- 7月 高雄中学校との統合に向けて「双ヶ丘・高雄中学校統合準備委員会」を設立
- 9月 京都市教育委員会に統合要望書提出

- 令和2年
- 1 2月 体育館屋根改修工事着工
 - 1月 堀川高等学校 SSH連携校指定として、2年生のポスター発表を実施
 - 2月 体育館屋根改修工事竣工
 - 3月 新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休校
 - 4月 第二十代 上田 元司校長着任
京都市教育委員会より
『令和2・3年度 「しなやかな道徳」教育研究指定事業』の指定を受ける
新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休校
 - 5月 生徒数438名
新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休校の延長
- 令和3年
- 10月 学校西側 雙ヶ岡との境にあったブロック塀補強し、金属柵を取替
 - 4月 京都市立双ヶ丘中学校・高雄中学校統合式を挙行
学校教育目標
「探究心を持って未来を創造し、心豊かにたくましく生き抜く生徒の育成」に改定
日本学校歯科医会より
『令和3・4年度「生きる力を育む歯・口の健康づくり推進事業」』の指定を受ける
 - 5月 生徒数482名
 - 8月 京都府歯科医師会より歯の健康診断成績優秀として表彰
- 令和4年
- 1月 『「しなやかな道徳」教育研究指定事業』研究発表会
*新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止
 - 5月 生徒数479名
 - 6月 紅白幕 壺張、スリッパ参拾六足 京都銀行様より寄付
- 令和5年
- 2月 『令和3・4年度「生きる力を育む歯・口の健康づくり推進事業」』研究報告会
 - 4月 第二十一代 尾中 尚史校長着任
学校教育目標
「自ら学び、未来を創造できる生徒の育成
～楽しくなければ学校ではない～」に改定
 - 5月 生徒数497名
 - 7月 全校舎（体育館および一部を除く）の長寿命化工事開始（令和6年12月完了予定）
6号校舎1階トイレ洋式化（長寿命化工事対象外）
- 令和6年
- 5月 生徒数467名
「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた実践研究事業」の指定（2年間）
- 令和7年
- 10月 「金融経済教育研究校」指定（令和7年度末まで）
 - 3月 校舎長寿命化工事完了 二足制へ移行完了
 - 4月 ジェンダーレス新制服導入
双ヶ丘中学校 PTA に変わり、新団体 “NSC（京都市立双ヶ丘中学校サポーターズクラブ）” 発足
 - 5月 生徒数441名
- 令和8年
- 4月 第二十二代 杉本 千恵 校長着任
学校教育目標
「自ら学び、未来を創造できる生徒の育成 ～笑顔あふれる学校に～」に改定
 - 5月 生徒数457名
「英語教育の充実のための取組指針推進に向けた実践研究授業の研究指定校」